

小牧山城 愛知県小牧市堀の内 1-1

1563(永禄6)年、信長は頂上から美濃方面を一望できる小牧山に城を築き清須から移り住んだ。1567(永禄10)年信長は美濃を手に入れ、稲葉山城(後の岐阜城)に住まいを移し小牧山城は使われなくなった。同城は中世以来の“土の城”ではなく、革新的な“石の城”であったことが近年の発掘調査で分かっており信長が「のちの城のイメージの基となる新しい城づくりをした地」として今後の調査が期待されている。後に、豊臣秀吉と徳川家康が戦った「小牧・長久手の戦い」では、小牧山城が家康の本陣として使い秀吉に対抗した。しかし、小牧付近では大きな戦いは行われず、秀吉と信雄は戦いを終えて家康も秀吉と和解するなど三英傑が関わった稀有な場所でもある。(パンフ、説明版)



説明版



市役所方面から見る小牧山城



麓からは急な登り



頂上に天守(現歴史館)



天守を守る石垣の一部



三傑の家紋



天守から見た遠方(周りが良く見える位置)





石垣



二重の土塁と堀



尾張徳川家9代藩主の墓碑